

## ソーシャルワークスペース「コラボベースNAGOYA」

JPタワー名古屋 36階に構えるコラボスタイルの本社オフィスは、半分を「コラボベース NAGOYA」として特定の会員が利用できるようになっています。本社スペースと会員制スペースの間はお互いの表情が見えるように仕切りを設けず、ミーティング時などに利用できる個室ブースの設置や国内外の様々なオフィス家具を体験できる場としてデザインされ、コミュニティ形成を目的とした実証実験の場として運営を行っています。



コラボベース NAGOYA は、会員企業同士の共創を促進するためのコミュニティチームが常駐しており、会員企業のビジネスの成長にも貢献しています。

また、創造性を掻き立てる新しい出会いや発見と、快適に仕事ができる空間づくりの両立に努め、名古屋のコミュニティ活動の玄関口として様々なゲストが集い、コミュニティイベントが行われるスペースとしても利用されています。

コラボベースNAGOYAの会員になるには…

コラボベースNAGOYAでは、自分の意見や気持ちを安心して表現し、活発なコミュニティ活動を行うために、コラボスタイルの企業理念に共感される方々に限って利用ができるよう、招待・紹介制とさせていただいています。



株式会社コラボスタイルは、一人ひとりが快適で働きがいを持って仕事ができるオフィス環境作りを行うワークスタイル事業と、デジタルの力で業務の効率化、働きやすさ向上させるクラウドワークフローシステム「コラボフロー」を軸としたデジタルワークプレイス事業を開拓しています。  
また、リアルとデジタルの2つの働く場に向けた事業展開に留まらず、自社が率先して新しいワークスタイルに挑戦し、発信を行うことでワークスタイルの未来を切り拓いていきます。

株式会社コラボスタイル ワークスタイル事業部  
TEL: 052-446-5530  
愛知県名古屋市中村区名駅 1-1-1 JPタワー名古屋 36階

# WORK STYLE DESIGN

## ワークスタイルを設計する

デザイン施工事例集

Workplace Design / Office Design

— CASE STUDIES —



## コラボスタイルの考えるオフィス創り

オフィスづくりは、建築家やデザイナーが主体になるのではなく、  
そこで働く人が主体となり、これからの中を想像しながら創造するべきだと、コラボスタイルは考えます。

多くの企業は、駅からの利便性や広さ、価格を重視して決めてしまったり、  
見た目の面白さや流行でオフィスづくりを進めてしまうことも少なくありません。  
しかし、それは本当の働く人にとって良いオフィスづくりと言えるでしょうか。

オフィスづくりは、多角的で多様性のある視点が必要です。  
働きやすさはもちろんのこと、オフィスへ行くこと、オフィスで過ごすことへの楽しみや居心地のよさや、  
働く一人ひとりがやりがいを持って活躍できる環境こそが、これからのオフィスづくりには求められる重要なポイントです。  
コラボスタイルは、オフィスはワークスタイルをより良く変える一つの道具と捉え、  
働く一人ひとりが快適で働きがいをもって働く環境こそがあるべきオフィスづくりと考えています。  
理想的なオフィスを通じ、働く全員の意識を変え、新たなワークスタイルの実現に向けてお手伝いいたします。



## 一人ひとりが「働きがい」をもって働くオフィスを創る

経営的な視点で「これから」を考えたオフィス創り



建築家やデザイナーの感性を大事にしながらも、  
経営的視点からどのようなオフィスを目指すべきかをコンサルティングし、  
働きやすさとビジネスの未来が広がるオフィスをつくります。

社員同士の「つながり」がより深まるオフィス創り



企業は社員一人ひとりの集合体だからこそ、  
社員一人ひとりの顔が見え、コミュニケーションがしやすい環境を設計。  
仲間がいることを感じられるオフィスをつくります。

社員一人ひとりが「やりがい」を感じられるオフィス創り



オフィスひとつで、社員の働き方やマインドが大きく変わるもの。  
社員一人ひとりが、仕事に対してやりがいを感じ、プライドをもって働く環境には、  
よいオフィスづくりは欠かす事ができません。



## 新しいワークスタイルを設計する・・・オフィスの創り方

### 物件探しから創る

駅からの利便性などのアクセスのしやすさを前提としながらも、ビジネスの成長に対応できるスケーラビリティも重要です。また、賃貸料や関連する費用（光熱費、管理費など）はもちろんのこと、経営者視点、社員視点、お客様視点と様々な視点から将来性のある物件のご提案をいたします。

### 企業課題から創る

企業が抱える様々な課題を踏まえながら、オープンスペース、プライベートスペース、コラボレーションエリアなど、ニーズを満たす柔軟性のあるオフィスをご提案いたします。最新のテクノロジーを活用したデジタル化を促進し、業務の無理、無駄、ムラを抑えた効率的な働き方のできるオフィスをご提案いたします。

### 従業員の満足度向上から創る

社員がそれぞれの作業スタイルやニーズに合わせて働くよう、柔軟なワークスペースや作業環境をご提案いたします。自分の個性やアイデアを表現し、創造性を発揮できる環境を整え、社員が集い語り合える場所もご提案いたします。

### 「なんとなく」を可視化して創る

「なんとなく」という理由でオフィスを変えるお客様も少なくありません。コラボスタイルでは、社員の満足度向上や業務効率の向上、コラボレーションの促進など、具体的な目標や課題をお客様との会話から見つけ出し「なんとなく」の違和感をリアルな課題に可視化したうえで必要に応じたオフィスづくりをご提案いたします。

## WORK STYLE

01



## 社員みんなが“愛着”を持ってくれるオフィス

CLIENT

サイボウズ株式会社 名古屋オフィス様

サイボウズが発信する多様な情報やスキル、ノウハウを発信し共有する場所であり、ビジネスの未来が発着する場所でありたい。そんな思いを込めて「ターミナル」をコンセプトにオフィス設計をしました。

お客様をお迎るのは中部地方の名所や景勝地が描かれたトンネル。抜けた先に見えてくるのは、広々としたグリーンあふれる空間と、さらに窓越しに見える名古屋の街並み。手前のビッグテーブルは、人々が集う憩いの場所。真上から見ると、サイボウズのマークになっているのもこだわりです。また、中部地方、そして名古屋に寄り添う空間デザインとして県民に愛される東山動植物園、そして国の重要文化財である植物園温室前館に発想を得た会議室もユニーク。そして目を引くのは、純喫茶 OGURA の文字と、バーカウンター。名古屋は古くから喫茶文化があり、そこからくつろぎの空間が生まれたとされています。

広々とした空間は、プレゼンやセミナー、多様なイベントができるフリースペースに。移動を前提とした小さめの机と椅子は、小学校

の教室を思い出させ、常に新しい情報を共有する場所としての目的も兼ね備えています。

コラボスタイルのオフィス作りはデザインだけではありません。むしろ、デザインは結果。社員たちが、オフィスに愛着を持てるようするため、壁に漆喰を塗ったり、ファミリーデイなどを企画することで、社員が自主的にオフィスリニューアルに関わる仕組みを提案・実施しています。

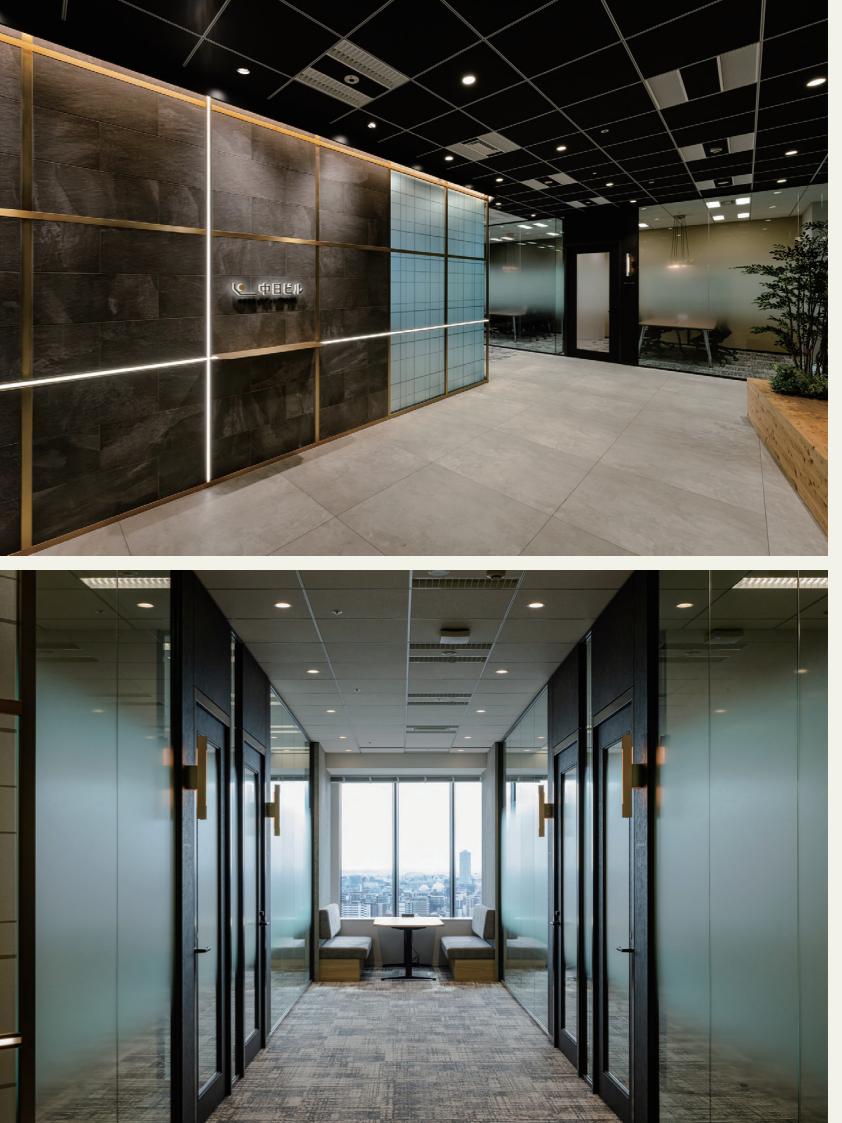
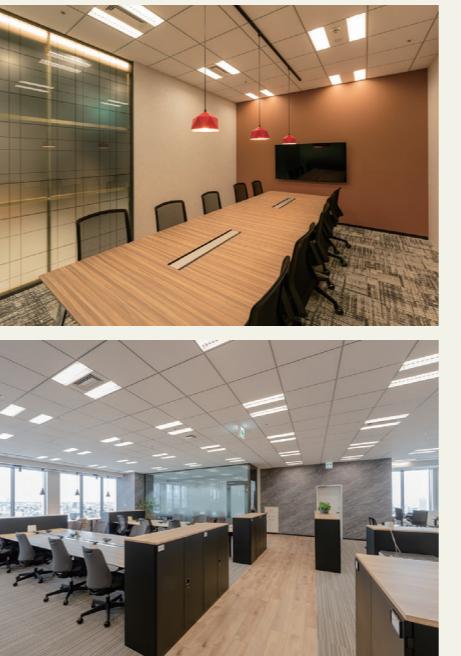
中部地方そして名古屋へのオマージュと、ワクワクするオフィス設計、社員の積極的な参加をイベントなどを通じサイボウズが今回のリニューアルで掲げてきたもうひとつのコンセプト「チームハブ」も叶えることができました。

社員同士の積極的なコミュニケーション、社員がお客様を招き入れたくなるオフィスデザイン、お客様も使いたくなる多様な空間設計。「様々なチーム」が自由に使える「ハブ」として、オフィスがあること。働くということが楽しくなり、オフィスに愛着が持てるごと。サイボウズが目指す未来を今回のオフィスづくりで実現しました。



## WORK STYLE

02



## すべての社員から笑顔が溢れるオフィス作り

### CLIENT

中部日本ビルディング株式会社 様

新中日ビルの要。そして入居企業すべてを管理・サポートする中部日本ビルディング。その意思と矜持、そして未来への意志をエントランスの壁一面にデザイン。名古屋城から栄にかけて広がる碁盤の目をベースに、久屋大通と広小路通が交差する新中日ビルの拠点に社名を配置しています。

エントランスから続く会議室は、使いやすさはもちろんのこと、カラーリングで中日グループの結束力を表現。例えば、青と赤は中日ドラゴンズを表すなど、それぞれにストーリーを設けています。また、会議室の入口、そのフレームには愛知の伝統工芸金細工からインスピレーションを受けたカラーリングが施されています。

ワークスペースに入ると、仕事を集中的にこなすためのパーソナルなデスクがある空間とカフェのような空間が広がります。空間の中心に置いたビッグテーブルは、中部地方にある材木店から直接購入したこだわりの無垢材。地産地消のものやサスティナブルな建材を多用することもコラボスタイルが手がけるオフィスデザインの重要なテーマ。アイコ

ニックなタイルをあしらったカウンターの左官天板は、テナントとして入居するお客様の磁器タイルサンプルを活用して作られたもの。磁気タイルは土に還ることがなく、産業廃棄物となります。それを捨てるだけでなく、一部だけでも再利用し環境を守る。これは、新中日ビルのオーナー会社として、環境への取り組みを積極的に行うことで、新中日ビルのテナントおよびこのビルに関わる人たちに「サスティナブル」な意識を持ってもらうことが目的です。

また、今回のオフィスは、デザインからワークスタイルを変えることも大きな狙い。働くこと、生きることの意味が変わっていく時代に、その先導者として自ら働き方を変える意識を持てるように、想像力を掻き立てるオフィス作りを実現しています。

サスティナブルという価値と、劇的に変えていくこうとするオフィス作りへの挑戦。今では、社内コミュニケーションを活性化し、会社も笑顔が増え、明るくなったというお声をいただいている。

## WORK STYLE

# 03



オフィスの進化は、社員の矜持へと進化する

CLIENT

側島製罐株式会社 様

3階建ての事務所兼倉庫をフルリニューアル。新しい働き方、そして企業のプランディングも想定した上で、オフィスデザインからワークスタイルまでトータルなオフィスを提案しました。

まずは1階。従来は事務室として使われていた空間を、フレキシブルに使えるオープンエアリヤに再構築。ミーティングをはじめ、食事や休憩など、自由に使えるほか、巨大プロジェクトによるセミナーや研究発表など多用途な使い方ができるよう設計しています。

2階は、社員食堂だったところを、全面ガラス張りを活かしたオフィス空間に。見晴らしが良い窓側にはカウンターデスクを。日が落ちてから望むオフィス外観はインテリアショップのような美しい空間。そこに先端のワークスタイルが浮かび上がります。また、北欧のデザインを取り入れたバーカウンターとカフェラウンジを用意。真鍮が美しいこだわりのラウンジはコミュニケーションを促すバーになっており、休憩時間や就業時間後のリラックススペースとして活用されています。ワークスペースには、仕事の効率化と創

造性を喚起するリノリウム天板のワーキングカウンターをオリジナルで制作。クリエイティブが生まれる場として利用されています。

3階に向かう階段の天井は、缶の材料となるアルミのモビールが揺れるアートな空間に。会議室に向かう時には、創作意欲を掻き立てるアイコンとして機能しています。3階は倉庫のほか会議室を集約。スタンダードな設計の大会議室、撮影スタジオなどにも使える中会議室。小会議室は、座りながら話し合いができるユニークな空間に。

側島製罐様では、社員も積極的にオフィスリニューアルに参加を促すイベントを実施。オフィススペースの壁一面の漆喰壁は社員が左官作業にて仕上げました。その手作業の一つひとつが社員の意識を変え、矜持へと進化していきます。常に「缶(CAN)」の新しい可能性を追求する側島製罐様。社員一人ひとりが、缶の可能性を求めて続ける。缶にできることを探し続ける。今夜もまた、オフィスの活気が暗闇に輝きます。